

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 7 部門第 1 区分

【発行日】平成29年1月12日 (2017.1.12)

【公開番号】特開2016-195057(P2016-195057A)

【公開日】平成28年11月17日 (2016.11.17)

【年通号数】公開・登録公報2016-064

【出願番号】特願2015-74831(P2015-74831)

【国際特許分類】

H 0 1 R 12/73 (2011.01)

【 F I 】

H 0 1 R 12/73

【手続補正書】

【提出日】平成28年11月22日 (2016.11.22)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 2 8 】

また、側方案内面 1 4 A と端案内面 1 5 A との間には、下方に向かうにつれてコネクタ幅方向内方及びコネクタ長さ方向内方へ傾斜する隅案内面 1 0 A が形成されている。図 1 に見られるように、該隅案内面 1 0 A の上縁及び下縁は、側方案内面 1 4 A 及び端案内面 1 5 A の上縁及び下縁と同じ高さに位置している。該隅案内面 1 0 A は、コネクタ嵌合過程にてプラグコネクタ 2 をコネクタ幅方向及びコネクタ長さ方向で受入部 1 6 内へ向けて案内する。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 5 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 5 6 】

また、本実施形態では、底壁 1 1 は、延出部 4 3 に対応する領域にて、複数（本実施形態では二つ）の底孔部 1 1 A 以外の範囲で閉塞されており、該延出部 4 3 が該底壁 1 1 で保持されている。したがって、一体モールド成形時での大きい押さえ面積そして端子の安定性を確保するために延出部のほぼ全域にわたる領域で底壁に底孔部が形成されるような場合と比べると、延出部 4 3 に対応する領域でのハウジング 1 0 の強度を大きくすることができる。